

# 蜂刺され災害を防ごう!

—重篤なアレルギー反応のおそれのある作業者はエピペンを携行しましょう—

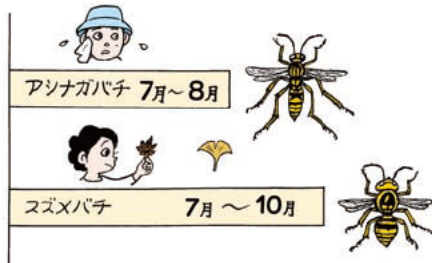
平成20年改正の林業・木材製造業労働災害防止規程では、蜂刺されのおそれのある場所で作業する場合は、あらかじめ蜂アレルギーの検査又は診察を受け、重篤なアレルギー反応を起こすおそれのある作業者は、アドレナリンの自己注射器（エピペン）を携行するよう努めることが決められました。

## 日本の蜂刺されによる死亡者数等

区分	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
蜂刺され死亡者数	30	31	27	34	26	23	24	18	26	20
民有林死亡者数	0	2	0	0	2	2	3	2	0	2
国有林	蜂刺され数	1097	1076	619	881	554	343	341	358	376
	エピペン使用	1	1	5	3	1	1	0	0	3

注：国有林は平成7年から導入。それ以降の死亡者数は、8年に1人、それ以外は0人。

◇ 刺す蜂の中で怖いのは、スズメバチとアシナガバチで、夏から秋がピークで危険です。



## ◇ 蜂の攻撃の特徴

- \* 巣に接近すると、警戒態勢をとり、威嚇する。
- \* 巣に刺激を加えると、攻撃してくる。

## ◇ 刺されたときの症状

### 〈局所症状〉

- \* 刺された所を中心にその周りに症状が出る。  
(大きく赤い腫れ、痛がゆい)

### 〈全身症状〉

- \* 刺された所だけでなく、体中に症状が出る。
  - ・ 即時に起こる全身症状  
(刺された直後から)  
軽い、中ぐらい、重い、アナフィラキシーショックの症状があります。  
アナフィラキシーショック（即時型アレルギー反応）は大変危険です。
  - ・ 遅れて起こる全身症状  
(刺されてから翌日以降)



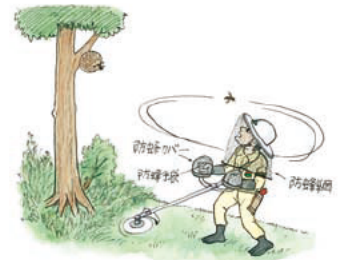
## ◇ 蜂に刺されないために

### 〈巣の所在を知っている場合〉

- \* 巣に近寄らない。
- \* 巣を刺激したり、震動を与えない。
- \* 巣の近くでは作業をしない。

### 〈巣の所在を知らない場合〉

- \* 適切な服装で作業をする。
- \* 防蜂網等（防蜂手袋、防蜂カバーなど）を着用する。
- \* 蜂の殺虫剤スプレーを携行する。
- \* 適切な退避をする。



## ◇ 蜂の習性をよく知って対処（衣服の色、身なり）

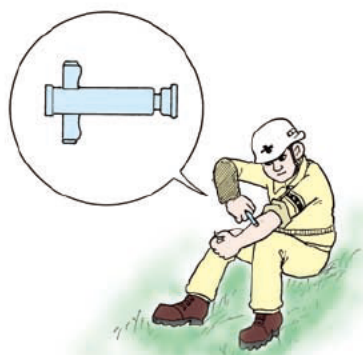
- \* 着衣に注意：黒いものは身につけない。  
出来るだけ白色系にすること。  
巣の近くで蜂を怒らせると色には無差別となる。



- \* 体の露出部（腕、手、顔）と動きのある部位が刺されやすい。
- \* においも蜂を刺激し、攻撃の対象となる。  
ヘアトニック、香水等の化粧品、体臭、汗臭さ等
- \* 蚊よけの超音波発信器も蜂を興奮させて、攻撃を受けることがある。

#### ◇ 刺されたときの処置

- \* 刺された現場から離れ、速やかに毒吸引器等で毒を絞り出す。



- \* 毒の周りを遅くするため、患部を冷水で冷やす。



- \* 刺されたところに、抗ヒスタミン軟膏を塗る。抗ヒスタミン錠剤の処方を受けている人は、服用する。

- \* 発疹、咳、目がくらむなどの症状が出たら、速やかに医療機関に運ぶ。
- \* アナフィラキシーの徴候や症状を感じたときは、エピペンを注射する。



- \* 患者を移送するときは、担架で救急車まで運ぶ。自力歩行させたり、背負ったりしない。



**エピペンの必要な人は携行するようにしましょう。**

- ※エピペンの使用には、しかるべき医師の診察とその処方が必要です。
- ※林業の作業現場では、救急車が到達するのに多くの時間を要します。
- ※危険な状態になることが見込まれる作業者は、刺されて危険な状態になった場合に、直ちに対処出来るよう、エピペンを携行しましょう。

